

# 紫外線から



サングラスをかけて通園する園児ら  
(さいたま市緑区の百合ヶ丘幼稚園)

## 我が子をガード

日差しが強くなる季節、子供の紫外線対策に気を使う消費者が増えた。紫外線が子供の健康に影響を与えるという認識が親の間で浸透したため、日焼け止めクリームだけでなく、サングラスなどでも子供用商品が売れている。今年の夏は対策グッズを身に付けて遊ぶ子供の姿が目につきそうだ。

### 健康へ影響 認識広まる

今月半ばの朝、古里学園・百合ヶ丘幼稚園(さいたま市)にサングラスをかけた園児が次々と登園してきた。つばの大きい帽子や長袖の服を着用した園児もいる。この幼稚園では五年ほど前から通園の際、園児

## サングラスや長袖水着

にサングラスや帽子の着用を勧めている。石関健園長は「保護者の間で紫外線対策への関心が高」と話す。五歳児を通わせている三十代の母親は、子供用サングラスをカシユール衣料の「GA P」で購入した。「機能性だけでなく、おしゃれにも気を配りたい」

将来の白内障の予防に役立つという子供用サングラスは好調だ。阪急百貨店インクス館(大阪市)では、三月末に発売した独自商品の子供用サングラス(七千八百七十五円)が計画を二〇％上回る売れ行き。紫外線カット率九九・九％で、凹凸の少ない小学校低学年の子供の顔に合うよう設計してあるのが特徴だ。ピーカパー(埼玉県和

▼紫外線と子供 紫外線の浴びすぎは、シミやがんなどの原因になるとの認識は一九九〇年代に浸透。子供に關しても母子手帳から日光浴を勧める記述が削除され、将来の健康への影響を懸念す

る考えが広がった。紫外線に詳しい日本臨床皮膚科医会学校保健委員会の島田辰彦医師は「子供は皮膚が薄く紫外線を吸収しやすいため、幼児期から対策をとるべきだ」と話している。

光市)が運営する、紫外線対策グッズを専門に扱う通販サイト「エポカタル」。売れ筋は、受けた紫外線の量が一定を超えると、ファスナーの色が半透明から紫に変わる子供用パーカー「タウンメッシュUVプロテクトウエア」(五千四百六十円)だ。四月の売り上げは前

年同月比五割増えた。三隆商事(大阪市)が運営する通販サイト「ミタカジャパン」では、長袖長スポンの水着の四月の売り上げが同五割伸びている。ビジョンでは植物性の保湿成分を配合して肌に潤いを与える子供用日焼け止め「UVベビームルク」(八百四十

### 紫外線の量が多いオーストラリアは皮膚がんの発病率と死亡率が世界で最も高い。子供のころから

### 外では必ず帽子

### クリームも携帯

### 豪では対策徹底

出られない。ほとんどの子供は日焼け止めクリームを持ち歩いており、自分で出して塗る習慣だ。様々な企業が子供向けのクリーム、水着、サングラスなどを扱う。人気が高いのが豪が対策協会が認定商品。ライセンス収入を含む同協会の売上高は約五千万豪円(約三十七億円)に達するという。(シドニー 高佐知宏)

生後間もない時期から紫外線対策に力を入れる親も増えているようだ。赤ちゃん本舗ではベビーカーの上にかぶせて紫外線を遮るほろ「ベビーカーカバー コプター君」シリーズが好評。四月の売上高は同十倍に上っているという。